

オリンピックを楽しんだ市民の姿

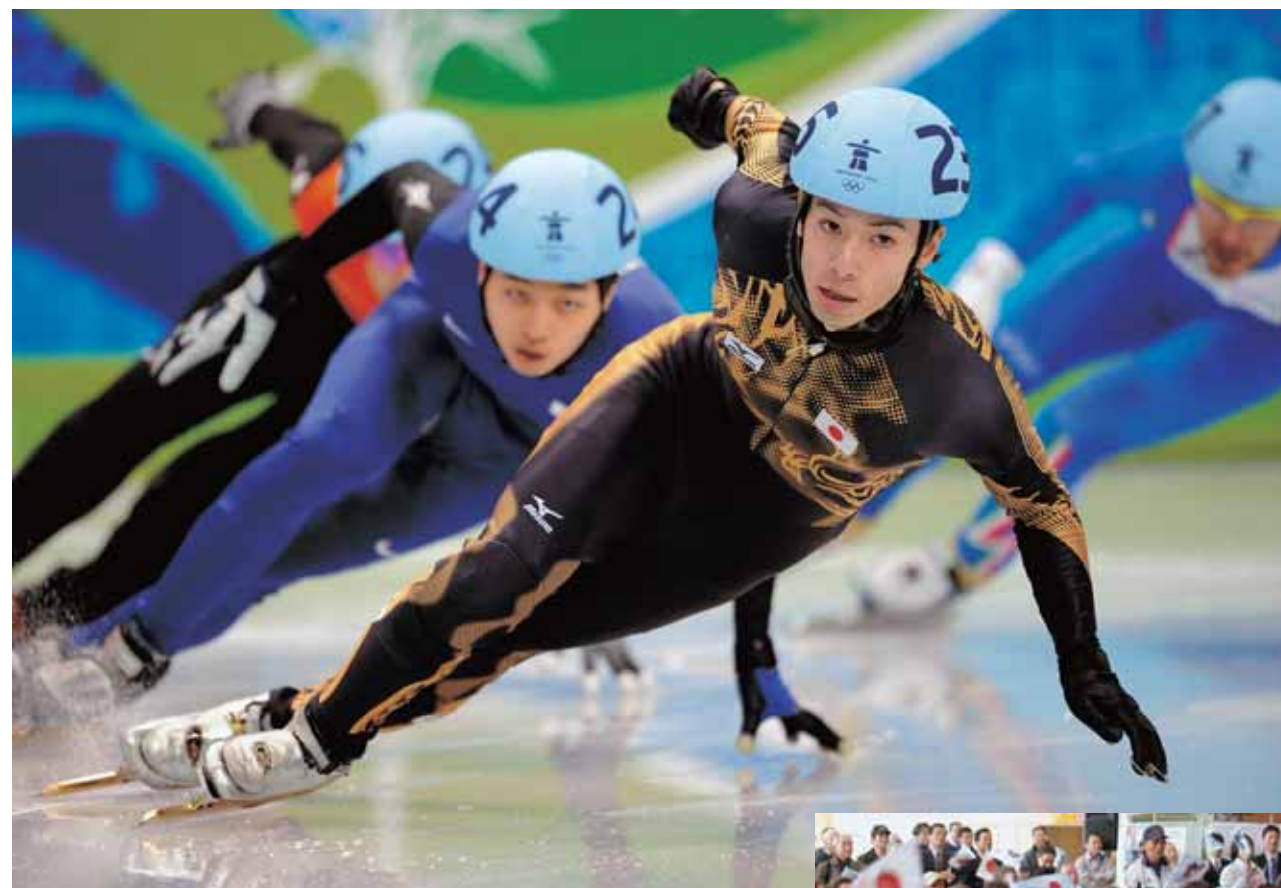
熊本では、スケートやスキーといった競技にはあまりなじみがなく、冬季オリンピックが地元で盛り上がることはなかなかありません。

しかし今回、藤本選手の頑張りが市民にオリンピックを身近に楽しむ機会を与えてくれました。また、スピードスケート・ショートトラックという競技について「藤本選手の活躍で初めて関心を持った」という市民の声も聞かれました。

2月14日の観戦会には市民に混じって、市外からやってきた子どもたちの姿も見られました。熊本県スケート連盟に所属するスケート選手たちで、先輩である藤本選手の激闘を最前列で応援していました。また、応援に駆けつけた同級生の皆さんは「彼はスケートできつそうな姿は人に見せず、いつも明るかった。」と、学生時代のエピソードを話してくれました。



①スケート連盟所属の子どもたち ②同級生の皆さん ③2月25日の観戦会にはご両親も出席(写真左からお母さんの睦さんとお父さんの勉さん) ④観戦会には三菱電機㈱から大画面テレビが無料で貸し出されました ⑤⑥藤本選手の応援に⑤かすみ保育園⑥愛泉保育園の園児たちが歌を披露



写真提供：フォート・キシモト



市民みんな応援「藤本選手がんばれ！」

バンクーバーオリンピック2010

世界に挑んだ藤本貴大選手

市民からも熱いエール

感動をありがとう

2月12日から17日間にわたってカナダのバンクーバーで開催された第21回オリンピック冬季競技大会。本市出身の藤本貴大選手(黒石)がスピードスケート・ショートトラックの日本代表として出場しました。藤本選手は前回のトリノ大会に続いて2度目の出場で、冬季オリンピックへの2大会連続出場は、本市だけでなく熊本県からも初の快挙となりました。

藤本選手は1500メートル・1000メートル・500メートルの3種目に出場。最初のレースとなった1500メートルでは予選を通過し、準決勝に進みましたが、惜しくも敗退。その後の1000メートル・500メートルでは予選で敗れ、改めて世界の壁の厚さを感じる結果となりました。

しかし、藤本選手を応援しようとユーパレス弁天で開催された観戦会(パブリックビューイング)では毎回たくさんの市民が駆けつけ、どのレースでも温かい声援がさかんに送られていました。

市民栄誉賞受賞が決定!



大住市長と握手を交わす藤本選手

3月5日、熊本に里帰した藤本選手が市役所を訪れました。地元テレビ局など多数の報道機関が集まる中、来庁していた市民や職員の温かい拍手で迎えられました。

市では藤本選手に市民栄誉賞を贈ることが決定しており、大住市長から本人に伝えられました。藤本選手は「非常にうれしいです。賞をもらうだけで終わらないよう、結果も残したい。」と語りました。また、地元の声援に対して「市民の皆さんの応援は、バンクーバーにも届きました。応援されながらスケートをできるのは幸せ者だと感じます。」と感謝の言葉を述べました。

「これから、もうひとふんばり」と今後現役を続ける意欲の藤本選手。ひたむきな努力を続けるその姿を、市民みんなが応援しましょう!